

## 実践報告資料

研究テーマ 『 個々の実態に応じ、子どもの権利を尊重した指導の充実 』

研究内容 【 (1)、(2)、(3)、(4) 】

学校名 ( 伊丹市立荒牧中学校 )

ア 人権教育としてのねらい 一人ひとりの存在や思いを大切にさせることで自他の人権を尊重できる生徒を育てる				
イ 研究の概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの権利に関する知識や命の尊さについて学ぶ。</li> <li>・ 生徒の自主性を発揮できるための場や個々の状況に応じた活躍の場の設定を行うことで、自己肯定感を培い、より良い人間関係を育む。</li> <li>・ 主体的・対話的な学び合いを通して自己肯定感や自己有用感を育む。</li> <li>・ 授業を通して、自他の価値観を認め合う態度を育てる。</li> </ul>				
領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	3年家庭科担当	全教職員	全教職員	全教職員
実施日	10月	11月	4月3日～7月18日	6月16日～1月25日
取組名	子どもの権利条約	100万回生きたねこ	制服・校則の見直し	ROSE タイム
目 標	子どもの人権に関する法律や条例を知ること、社会の一員としてお互いの権利を尊重し生きていけるようにする。	生命には限りがあり周りの人に生かされていることに感謝の念をもちながら、より良く生きようという態度を育てる。	生徒自らが話し合っ て決めていくことで自 己肯定感を高め、生徒 が主体的に考え、行動 する力を身に付けてい く。また、共感的な人 間関係を育成する。	主体的・対話的な学 び合いを通して主体性 を育成し、自己肯定感 を培い、より良い人間 関係を育む。「伝える 力」を伸ばすことで、 コミュニケーション力 を高める。
資料名	『新しい技術・家庭分野』(開隆堂) 単元「家族・家庭生活」	「きらめき」 (県教育委員会)	/	/
指導内容 や指導方 法の工夫 等	伊丹市教育委員会から配布された資料を用いながら、「子どもの権利条約」について理解させる。条文カードのグループ分けや順位付けを通して、様々な見方・考え方があることに気付かせるとともに、自分にも他人にも大切な権利があることを理解させる。 (知識的側面からのアプローチ)	誰もが慣れ親しんだ絵本や情報機器などを活用することで話の内容をつかみやすくする。学習を通して自分を大切に思うと同時に他者を大切に思う気持ちが、自他の生命の尊重や人間関係づくりの基盤となることを考えさせる。 (価値的・態度的側面からのアプローチ)	社会の変化や地域性を見据え、充分な話し合いの時間を確保して、きまりや校則について生徒が主体的に考え、守っていくという姿勢を育む。生徒が主体的に考え、自由に意見を言え自己決定する過程を大切にする。 (価値的・態度的側面、技能的側面からのアプローチ)	異年齢集団で教え合い活動をすることで、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け止めたりすることにより、自他の価値観を認め合う態度を育てる。 この活動が教科指導だけでなく人権的な面での指導にもつながるよう生徒の実態に応じたグループ分けや指導になるようにしていく。 (技能的側面からのアプローチ)